

ガザ=ストロフーパレスチナの吟^{うた}

入場無料

上映会

008年制作の映画が私たちに語りかけるもの



PRIX EL ARD
AL ARD DOC
FILM FESTIVAL 2011

PRIX AHMED ATTIA
POUR LE DIALOGUE
DES CULTURES
MEDIMED

GRAND PRIX FRANCE TV
ENJEUX MÉDITERRANÉENS
PRIX INTERNATIONAL
DU DOCUMENTAIRE ET DU
REPORTAGE MÉDITERRANÉEN

PRIX DU JURY OFFICIEL
21^e FESTIVAL INTERNATIONAL
DU FILM D'HISTOIRE DE
PESSAC
CAT. DOCUMENTAIRE

PRIX DU JURY
DES JEUNES JOURNALISTES
21^e FESTIVAL INTERNATIONAL
DU FILM D'HISTOIRE DE
PESSAC
CAT. DOCUMENTAIRE

production
L'YEUX OUVERTS / ISKRA
DUBAI ENTERTAINMENT &
MEDIA OFFICE

avec la participation de
MEDIA GROUP

avec le soutien de
la fondation
UN MONDE PAR TOUS
la fondation
LA FERTHÉ

GAZA-STROPHE,
PALESTINE

un film documentaire de
SAMIR ABDALLAH &
KHÉRIDINE MABROUK

montage
KAHENA ATTIA

musique
ABBAS BAKHTIARI

production
MATTHIEU DE LABORDE

GAZA STROPHE PALESTINE

un film documentaire de
SAMIR ABDALLAH & KHÉRIDINE MABROUK



1948年から、ずっとカタストロフを生きてきた

2025年3月22日(土)午後2時
2025年3月29日(土)午後2時

カトリック夙川教会
尼崎女性センター
トレビエ

ガザストロフ - パレスチナの吟 - 上映会

2023年10月7日のハマス急襲に端を発したイスラエルによるガザ地区への攻撃と侵攻は15ヶ月を経て、パレスチナ人の死者数は46000人を超えています。この映画は2008年、ガザ地区の完全閉鎖の直後のガザ攻撃の状況を映したのですが、ジェノサイドが今始まったものではないことを知る貴重な映像となっています。なぜ、世界は国際法違反の占領とパレスチナ人民族浄化を止めることができないのか、映画を見て、ともに考える機会となればと願っています。上映後の募金は、戦火の中、支援活動を継続しているNPO「パレスチナ子どもキャンペーン」に全額、寄付します。

【当日の予定】

2時から映画上映後（92分）

簡単なガザの現状報告とディスカッションと
支援の募金活動を行います。

主催	社会福祉法人すばる福祉会
協賛	カトリック大阪高松大司教区社会活動センター シナピス
連絡先	社会福祉法人すばる福祉会事務局 ☎0798-53-0122
	えぶりい西武庫作業所 ☎06-6432-58769
	カトリック夙川教会 西口信幸 ☎090-3943-4416

【作品について】

監督のケリディン・マブルークは、「パレスチナの人々は常に西洋の視点から描かれ死者数という数に還元されてきたが、一人一人の顔を描き世界に伝えることがこの作品の第一の目的だった」と振り返り、「パレスチナには世界の問題が凝縮されている」と強調する。本作はガザの地で生きる人々の姿を丁寧に描きながら、同時にパレスチナ問題の背景にある西洋諸国による二重基準、構造的暴力について浮かび上がらせる。多くの人々が、これは明らかにジェノサイドだ、と声を上げる悲惨な状況が続く中（2024年9月現在）、「現地にはどのような人々が生き、実際に何が起きているのか」を理解するための貴重なドキュメンタリー作品である。

【あらすじ】

2008年12月末から2009年1月にかけてイスラエルによるガザの大規模侵攻が勃発。監督のサミール・アブダラとケリディン・マブルークは停戦の翌日にパレスチナ人権センターの調査員と共にガザに入る。爆撃で両親兄弟を失った子ども、目の前で家族を銃撃された男性、土地を奪われ逃げてきた人々…「顔を持つ」一人一人の証言が記録されるとともに、パレスチナを代表する詩人、マフムード・ダルウィーシュの詩が引用され、ガザの人々が生きてきた歴史と記憶が呼び起こされる。劇中「全ての宗教において神の名は「平和」だ」と訴える男性。普遍的なメッセージは、世界でもっとも過酷な歴史を生きるパレスチナから発せられている。



【コメント】（『Nobody』より抜粋）

- ピーター・バラカン（ブロードキャスター）
完全に人道を逸してしまっているイスラエル軍の殺戮はやはりジェノサイドと呼ばざるを得ません。それでもパレスチナの人たちは強く、想像を絶する悲惨な状況の中でも、死んでも故郷を離れないと話す人の姿に感激しました。
- 安田菜津紀（メディアNPO Dialogue for People副代表／フォトジャーナリスト）
「すべては2023年10月7日にはじまった」のでは断じてない。
その証拠が、この映画にある。ありすぎるほど、ある。ただ世界が「見なかった」だけだ。
- 四方田犬彦（映画誌・比較文化研究）
建物が破壊される。オリーブの樹が次々と伐られる。人々は虐殺され、どこにも逃げ場がない。
あなたはそれを遠くから眺めていることしかできない。だが本当にできないのか。
- 中村修七（映画批評家）
彼らが語る言葉からは、嘆きと怒りばかりではなく、冷静な知性と痛烈なユーモアが感じられる。『ガザ＝ストロフ』は西洋が言う「人権」や「人間性」という概念がはらむ欺瞞を厳しく告発し、見る者に容赦なく自省を迫るだろう。

監督・撮影：サミール・アブダラ、ケリディン・マブルーク
編集：カヘナ・アティア
音楽：アバス・バハティアリ
製作：L'Yeux Ouverts、Iskra
原題：Gaza-Strophe, Palestine
日本語字幕：二口愛莉
配給・宣伝：Shkran
© L'Yeux Ouverts / Iskra 2010

